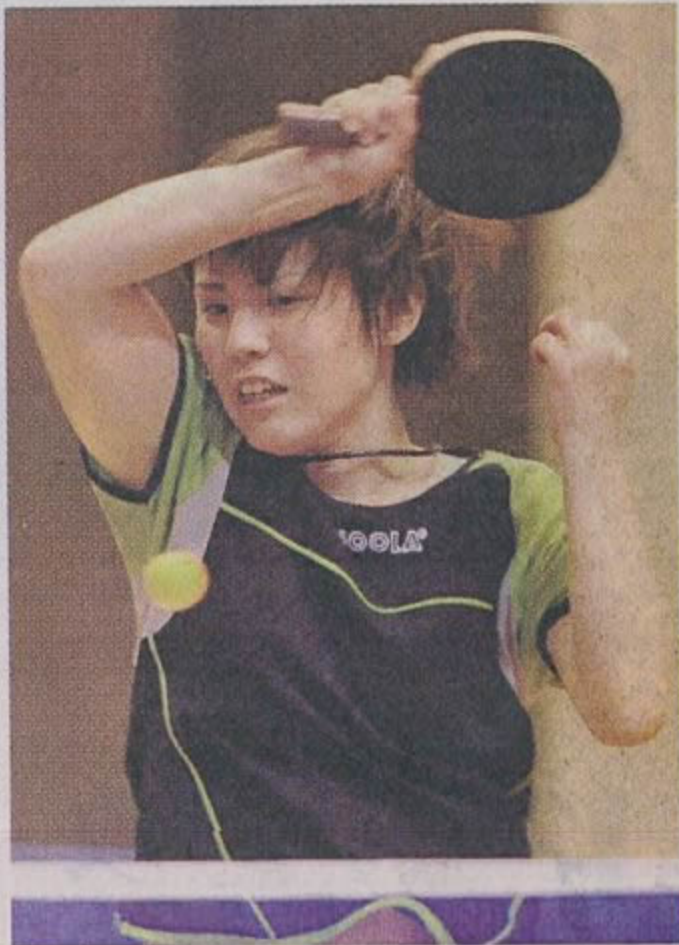


ドリーム高山A初制覇

新報旗争奪卓球

卓球の第33回新報旗争奪総合団体選手権大会最終日は7日、県総合運動公園体育館で男女の決勝まで行った。男子は祐斗クラブAが沖繩三越を3-2で下し初優勝。女子はドリーム高山Aが3-1で普天間高Aに勝って初制覇した。



女子団体決勝 スマッシュを決める狩俣道乃
＝県総合運動公園体育館

エース狩俣 流れ呼ぶ

エース対決を制し流れを呼び込んだドリーム高山Aが、前身の高山倶楽部時代を含め初の頂点に立った。

第1単で普天間高Aのエース仲宗根菜月に、タイムス杯覇者の狩俣道乃をぶつけた。狩俣は1-2の劣勢から、緩急を交えて自分のペースに持ち込んで2ゲーム連取。体調不良で体が動かなかったという狩俣の踏ん張りにより、高山朝光監督は「棄権も考えた。大きな1勝」とたたえた。

カットマン対策で第2単に回った大城佳穂は起用に応えるストレート勝ち。複は落としたが、第3単の奥平真樹が「複で負けた分、シングルスは絶対勝つ」と気持ちを出して3-1で取った。

「穴のないチーム」と高山監督。家庭を持つ選手が多く、十分な練習ができない中で、経験値と団結力でつかんだ優勝に胸を張った。(大門雅子)

▽決勝トーナメント1回戦 祐斗ク3-2前原高C、コサ高OB3-0外間クB、沖国大B3-1シングルA、宮古OB3-12前原高B、琉球大A3-2知念高、沖国大C3-1伊波ク、普天間高A3-0高山倶楽部、スマッシュボンバーB3-0沖繩大B、沖国大A3-0やんばる卓球ク、琉球卓球ク3-0コサ高OB、仲里家3-0宮古OB

大B、宮古OB3-1スマッシュボンバーA、琉球大A3-1宜野湾中、外間クA3-1沖国大C、普天間高A3-1スマッシュボンバーB、琉球卓球ク3-1沖国大A、祐斗クA3-0仲里家

▽同準々決勝
祐斗クA 3-1 琉球卓球ク
沖繩三越 3-1 琉球大A
祐斗クA 3-1 普天間高A
▽同決勝
祐斗クA 3-2 沖繩三越
根木貴光 3-1 宮良当映
狩俣道乃 3-0 親泊靖
根木 3-2 下地和彦
廣山裕樹 0-3 親泊
廣山 0-3 仲吉朝仁

○新垣博之 3-2 下地
▽決勝トーナメント1回戦 ドリーム高山B3-2球友会、金城ファミリア3-0コサ高B、トーマスエンジェルA3-2ドリーム高山(中)、ドリーム高山A3-0琉球大、でいこク3-2普天間高B、コサ高A3-1祐斗ク、沖国大3-1宜野湾中

▽同準々決勝
普天間高A 3-0 ドリーム高山B
金城ファミリア 3-1 トーマスエンジェルA
ドリーム高山 3-0 でいこク
沖国大 3-0 コサ高A
▽同準決勝
普天間高A 3-2 金城ファミリア

ドリーム高山 3-1 沖国大A
▽同決勝
ドリーム高山 3-1 普天間高A
狩俣道乃 3-2 仲宗根菜月
大城佳穂 3-0 金城椰々
奥平真樹 2-3 仲宗根
狩俣 3-1 川崎南
奥平 3-1 比嘉咲子

男子は祐斗クA

3年連続決勝 執念の初頂点



男子団体決勝 接戦でダブルスを制した
(左から) 廣山裕樹・根木貴光ペア

祐斗クラブが3年連続の決勝に進出で、ついに頂点をつかんだ。沖繩三越との決勝は、第1、2シングルスを取り合いがぶつり四つ。祐斗クはダブルスで廣山裕樹・根木貴光組がフルゲームの熱戦を制し、優勝に王手をかけた。「とにかくダブルスが勝負の鍵だった。死ぬ気でやっ」と廣山。足をすりながらも強打を決めた。

祐斗クは第4シングルスを落として再び五分。最終シングルスの新垣博之は「とにかく自分が勝たないと思つて」。ゲームカウント1-2から執念で逆転勝ちした。

メンバーは最年長の廣山でも28歳。実力も兼ね備え選手層は県内随一だが、「昨年も勝てなくて、本当に悔しかった」(廣山)。団体戦に懸ける思いが、この一戦に凝縮していた。(大城大輔)